

いない。血液検査等が実施され、その発生が確認されているにも関わらず、密な情報交換がなされていない等、ワンフロア化の機能が発揮されていない。集団放牧により集団感染の危険性も高く、充分な対応策が必要と考える。早急に対応すべきでは。

答 和牛繁殖の予防接種率は5割を超えている。乳牛についても接種率向上の啓蒙活動をしたい。

問 危機管理に情性がみられる。牛の病気に限らず全ての部分で情性を排し、常に危機感を持ってあたる事が重要ではないのか。

答 状況・情報把握の部分で、大いに反省すべき点がある。危機管理意識・体制について、改めて市職員全体の問題として捉え、今後万全を期したい。

遠野馬の里への補助金について



問 今回の議員全員協議会での説明では、完全民営化に向けて施設改修等を検討しているという

が、これに4千万から5千万円かかるとしている。更には資金不足が2千2百万から2千5百万円あるとしている。そして、現在施設利用している民間主要メンバー3者と交渉中であるとのことであるが本当に新会社を設立できるのか。

答 競走馬の預託頭数が減り、21年度以降は計画頭数を下回るようになり、22年に入っても歯止めがかからず赤字の状況である。このことは議会にも随時報告してきている。現状の交渉状況については、民間側としては株式会社を立ち上げること、具体的な手続きに入っている。一方では、完全民営化に向けては施設の改修を条件としており、坂路馬場のウッドチップ交換、壊れたポイラー施設を直すことが挙げられている。また、民営化に当たっては、競走馬の調教管理に留まらず、施設の運営管理についても、新会社が自己負担する中で対応するというところまで進んでいる。

問 18年度3月の補正での財政支援を限りに、今後市民には一切迷惑をかけるまいとしているが。

答 現段階までの財政支援総額については18年度3月補正での6千万円とそれまでの9億円を加え9億6千万円となっている

学校づくり協議会について

る。18年度3月議会で厳しい議論をいただいた。その上でありとあらゆる改革をしてきた。このことは逐次説明してきているとおりだ。検証委員会からは、45億円を投資した馬の里、遠野の馬事振興、馬事文化、遠野のイメージについて、負の形になることは避けなければならぬという進言もいただいている。残る最後の手立ては、効率性あるいは採算性を一番知っている馬主等に経営を委ねることが最良の道だと結論づけたところである。

問 中学校再編成学校づくり協議会の具体的な組織内容は。

答 中学校再編成に係る具体的事項について、市民の意見を広く取り入れ、新しい学校づくりについて検討協議を行うも



ので、識見者15名以内で構成する。その下に内部組織として3学区単位の部会を設置。部会は30名以内とし、学校、PTA、地域の中からそれぞれ10名以内ずつ人選する。

問 現時点で市民への周知が徹底されていないように感じるが、今後のスケジュールは。また、協議に当たっては原案を示す必要があると思うがどうか。

答 協議会は今年度中に作る。住民に対しては、区長定例会や地区センター、地連協等を通じ周知したい。原案に関しては、

※アカバネ病とは…アカバネウイルス感染による牛、羊、山羊などにおける感染症。家畜伝染病予防法における届出伝染病。このウイルスに感染した妊娠牛が異常産を起こす病気である。感染は吸血昆虫が活動する初夏から晩秋にかけて起こり、8月から10月が主要な感染時期で、ウイルスの感染を受けた妊娠母牛は流産、早産のほか間接湾曲や内水頭症を伴う体型異常子牛を分娩する。